

地球にやさしいオンリーワンを世界に届けるMORESCOグループ

# 第2四半期（中間期）業績の概要

（2024年3月1日～2024年8月31日）

東証スタンダード 5018（石油・石炭製品）

2024/10/21

# 目次

- 経営環境および事業概要

- 業績報告

- トピックス

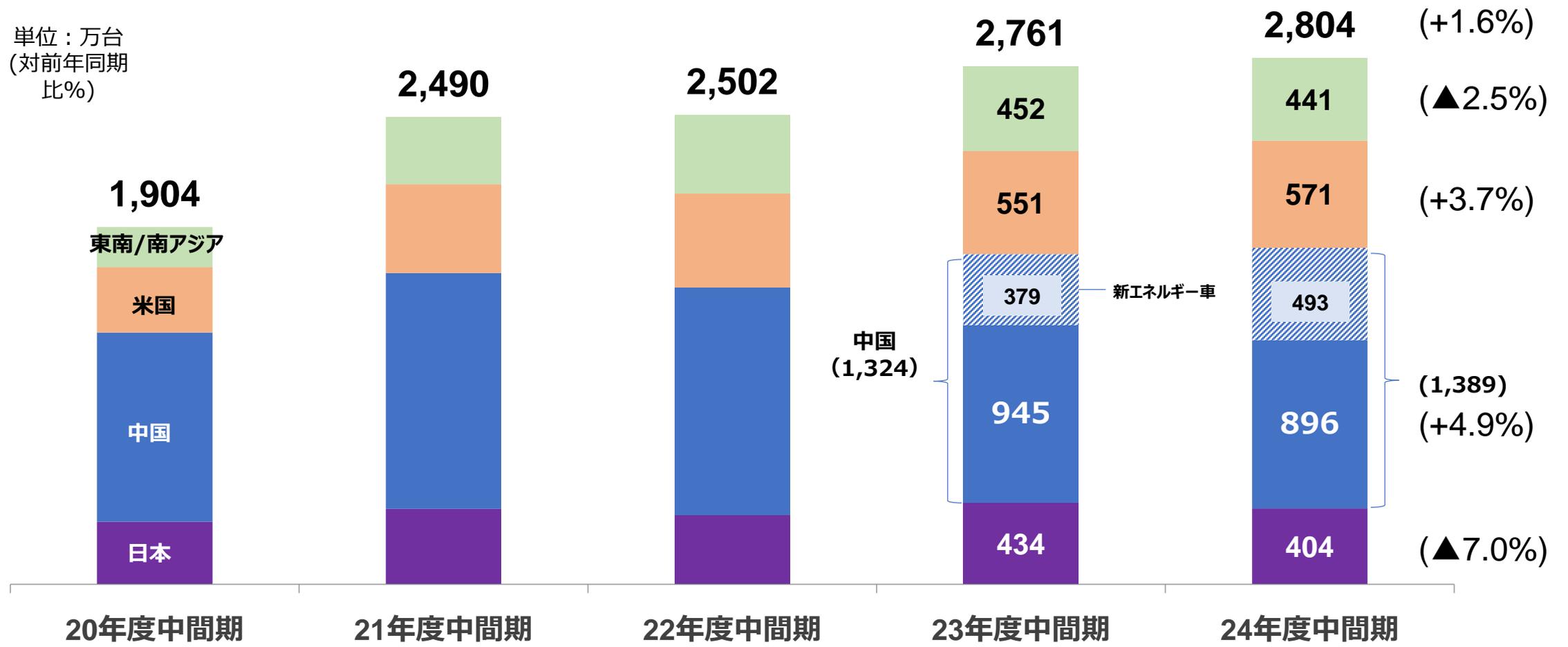
# 目次

- 経営環境および事業概要

- 業績報告

- トピックス

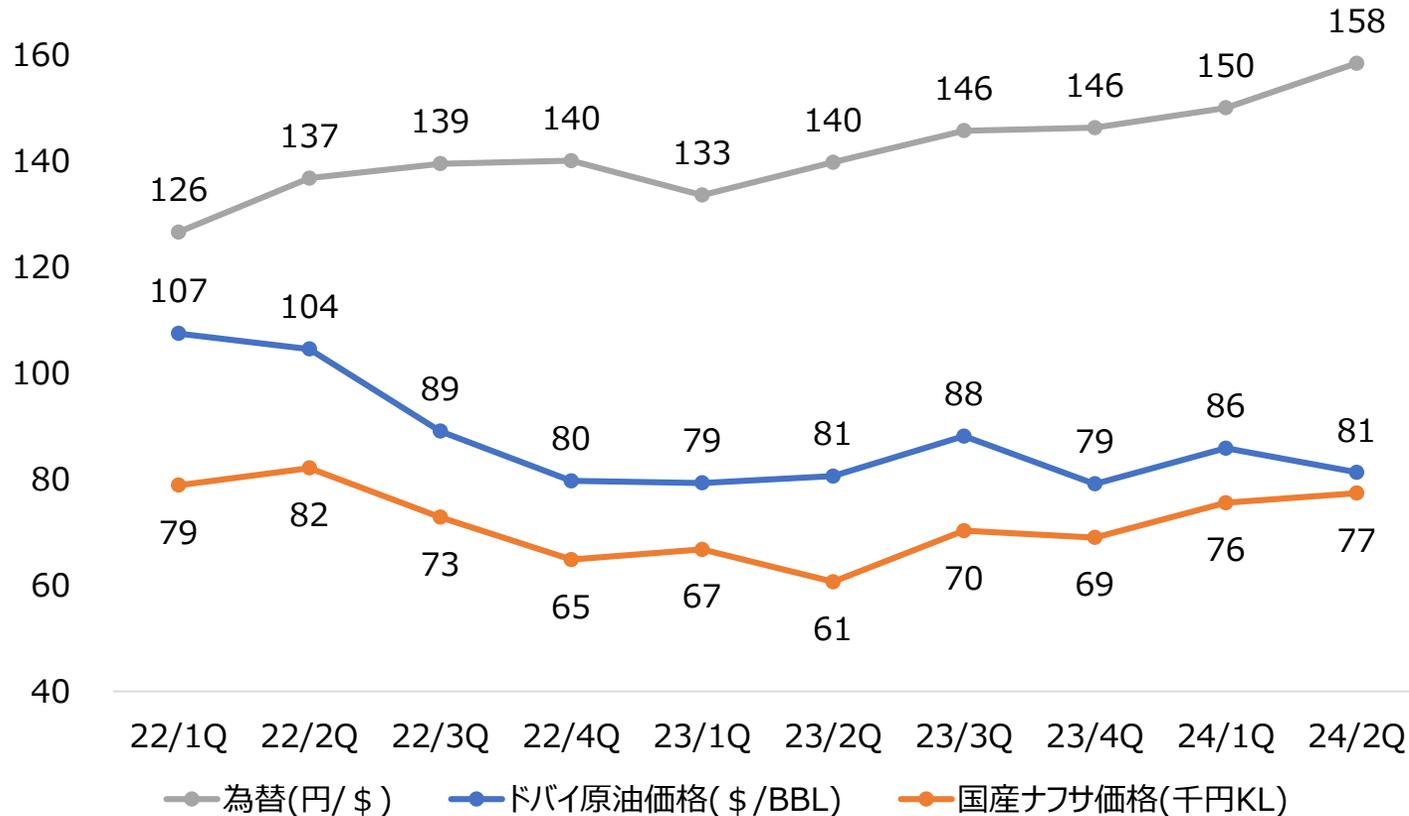
## 当社拠点所在地域における自動車生産台数推移



出所：マークライズ社  
 注1：当社の会計年度を基準に集計（日本：3月～8月 海外：1月～6月）  
 注2：東南/南アジアは、当社拠点のあるタイ、インドネシア、インドを対象に集計

➤ 為替は円安が進み、原油・ナフサ価格は前年より上昇

## 四半期推移



## 前年同期との比較 (半期ベース)

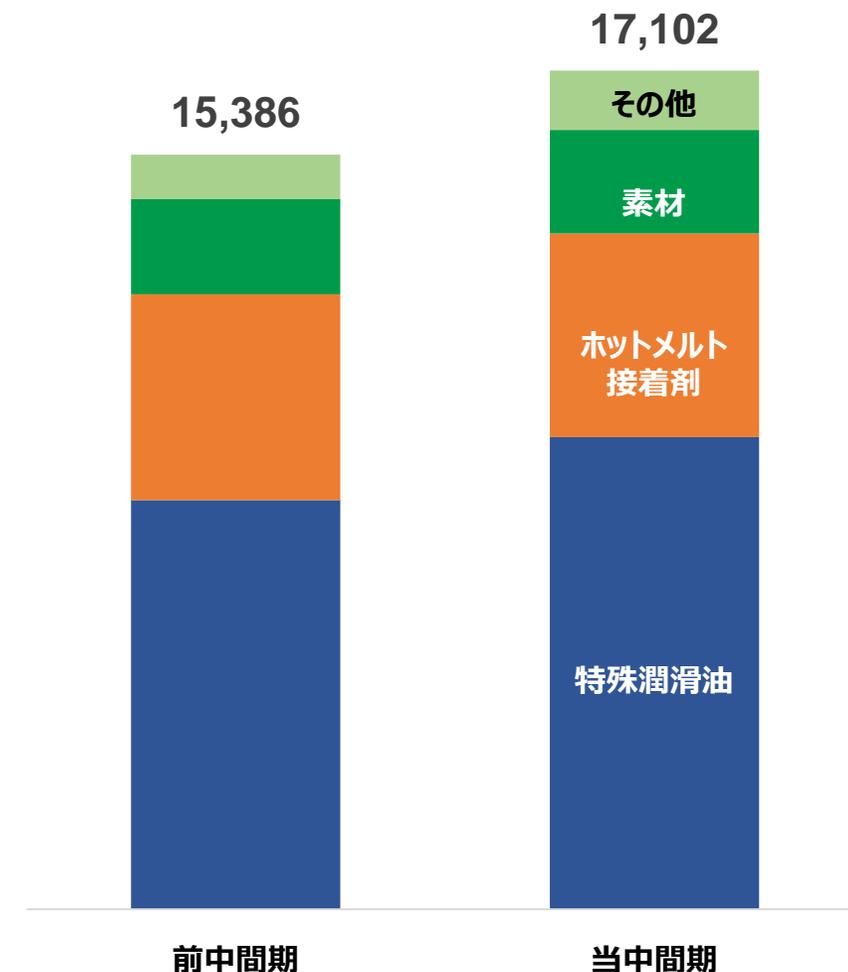
	2023年 (3-8月平均)	2024年 (3-8月平均)	前年同期 比	2024年 (計画)	計画比
為替レート (円/\$)	136.5	<b>154.1</b>	<b>17.5</b>	145	<b>9.1</b>
ドバイ原油価格 (\$/BBL)	79.9	<b>83.5</b>	<b>3.6</b>	97	<b>-13.5</b>
国産ナフサ価格 (千円/KL)	63.7	<b>76.4</b>	<b>12.7</b>	-	-

(単位：百万円)	前中間期	当中間期	前年同期比
売上高	15,386	<b>17,102</b>	<b>+11.2%</b>
売上総利益	4,197	<b>4,901</b>	+16.8%
販管費	3,669	<b>4,230</b>	+15.3%
営業利益	528	<b>671</b>	<b>+27.0%</b>
営業外損益	405	<b>294</b>	▲27%
経常利益	933	<b>965</b>	+3.4%
税引前利益	933	<b>917</b>	▲1.7%
中間純利益 ※	569	<b>576</b>	+1.1%

※ 親会社株主に帰属する中間純利益

➤ 特殊潤滑油部門と素材部門の需要回復により全体で11%増加

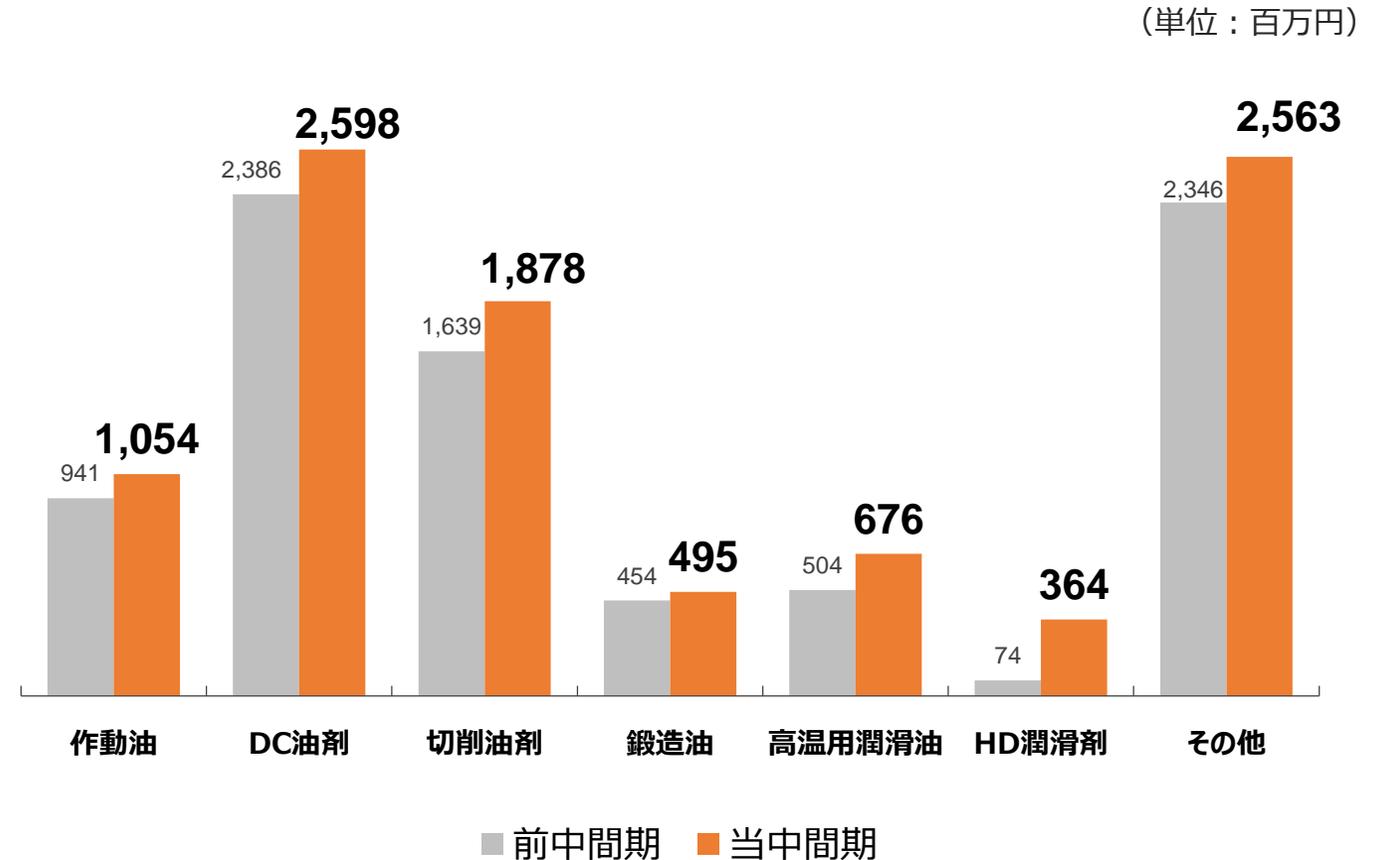
(単位：百万円)	前中間期	当中間期	前年同期比
特殊潤滑油部門	8,343	<b>9,628</b>	+15%
ホットメルト 接着剤部門	4,194	<b>4,152</b>	▲1%
素材部門	1,940	<b>2,114</b>	+9%
その他	910	<b>1,208</b>	+33%
<b>売上高合計</b>	<b>15,386</b>	<b>17,102</b>	<b>+11%</b>



【売上高】前年比**15.4%増**（9,628百万円）

【売上数量】前年比**6.3%増**

- **DC（ダイカスト）油剤**  
米国・中国の自動車生産台数増加  
および新規連結子会社化による増販
- **切削油剤**  
中国および北米の増販
- **HD潤滑剤**  
主要顧客の需要回復
- **その他**  
冷熱媒体の販売好調



【売上高】前年比**1.0%減**（4,152百万円） 【売上数量】前年比**0.5%増**

## ➤ 衛生材用途

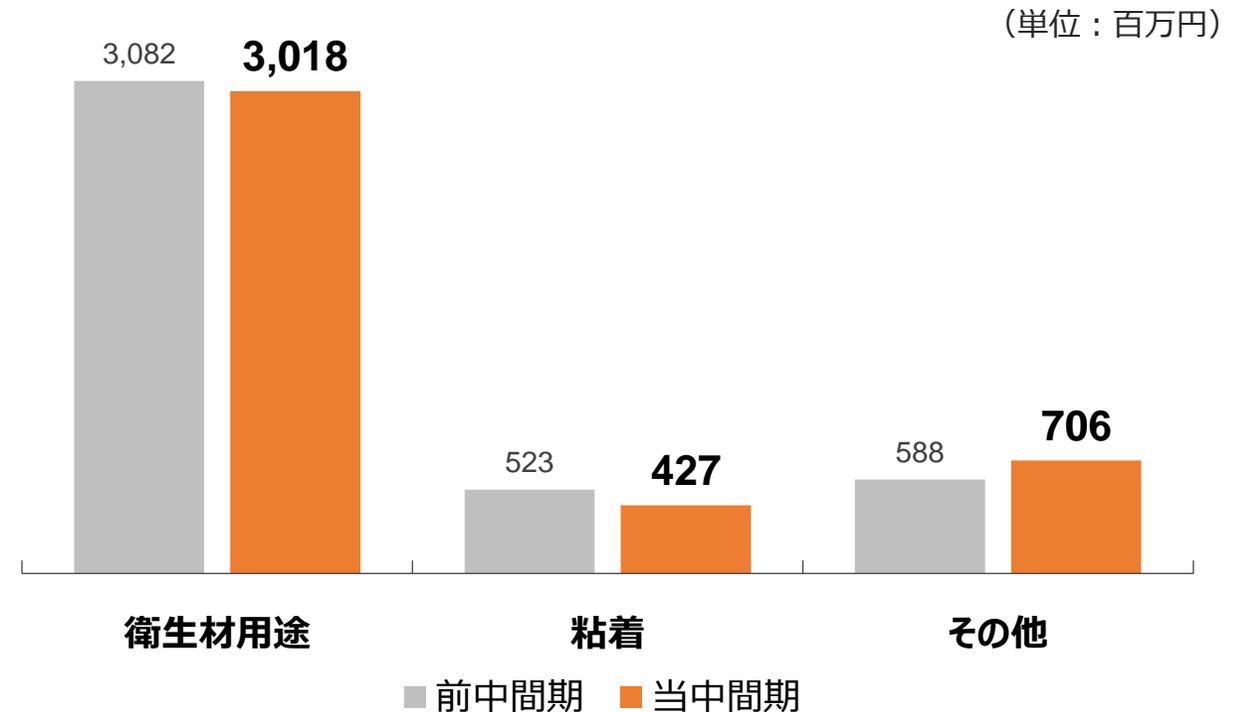
東南/南アジアでは在庫調整および需要が減少

## ➤ 粘着

東南/南アジアでの需要が減少

## ➤ その他

中国では空気清浄機用フィルター用途の販売回復



【売上高】前年比**9.0%増** (2,114百万円)

【売上数量】前年比**7.2%増**

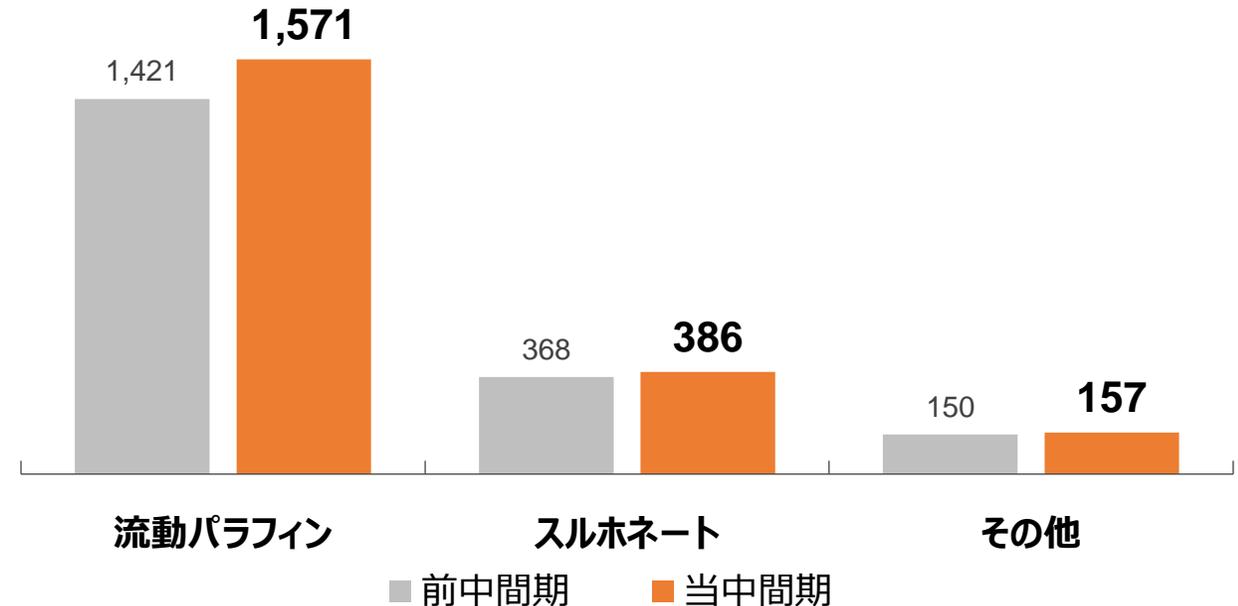
## ➤流動パラフィン

ポリスチレン可塑剤用途の需要回復により増収

## ➤スルホネート

前年対比微増

(単位：百万円)



# 目次

● 経営環境および事業概要

● **業績報告**

● トピックス

## 売上高

- 販売数量の増加および販売価格の是正により増収
- 事業譲受の海外子会社が寄与

## 営業利益

- 販売価格の是正により売上総利益を確保
- 高付加価値製品の出荷増
- 事業再編・譲受により販管費増加

## 中間純利益

- 為替差益の減少

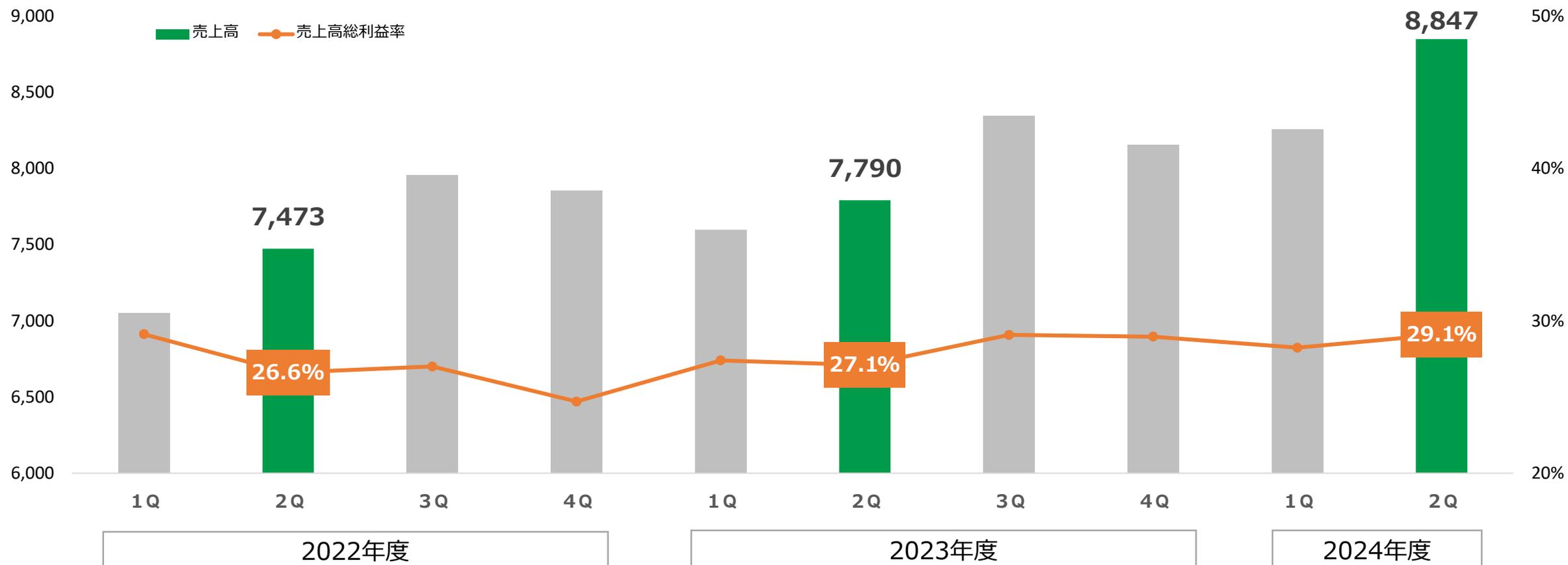
(単位：百万円)	前中間期	当中間期	前年同期比
売上高	15,386	<b>17,102</b>	<b>+11.2%</b>
売上総利益	4,197	<b>4,901</b>	+16.8%
販管費	3,669	<b>4,230</b>	+15.3%
研究開発費	634	<b>810</b>	+27.8%
営業利益	528	<b>671</b>	<b>+27.0%</b>
営業外損益	405	<b>294</b>	▲27%
経常利益	933	<b>965</b>	+3.4%
税引前利益	933	<b>917</b>	▲1.7%
中間純利益 ※	569	<b>576</b>	+1.1%

※ 親会社株主に帰属する中間純利益

# 売上高および売上高総利益率の推移

➤ 価格是正の推進と高付加価値製品の増販により利益率は前年同期比2.0%上昇

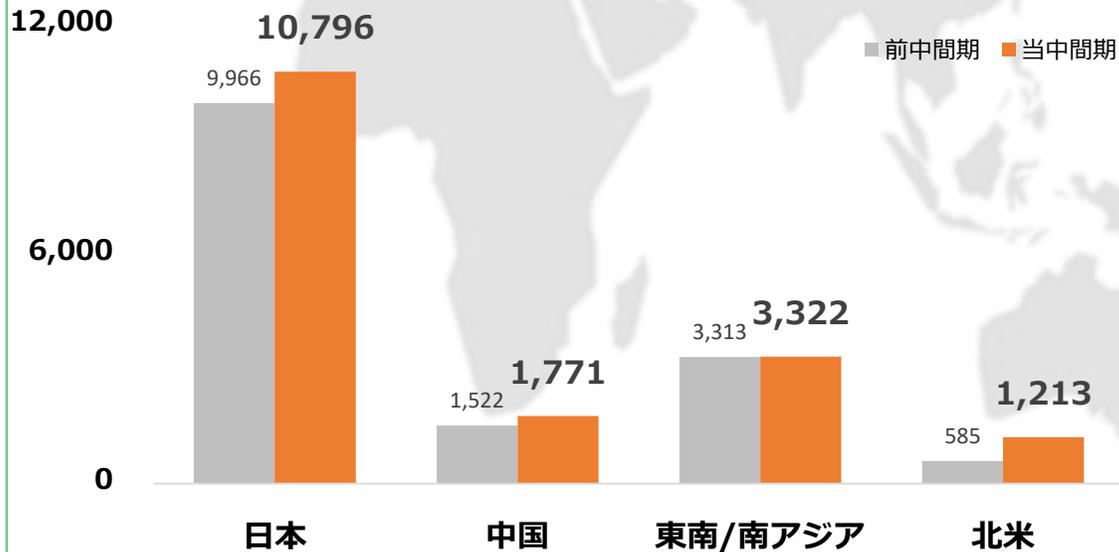
(単位：百万円)



- 【日 本】           ハードディスク表面潤滑剤の販売回復と子会社の大型装置販売により増収増益
- 【中 国】           日系自動車の生産増とホットメルト接着剤の出荷増により増収、販管費増により減益
- 【東南/南アジア】 価格是正と新規拡販により増収、ホットメルト接着剤需要減の影響により減益
- 【北 米】           2023年10月に完了した事業譲受により増収増益

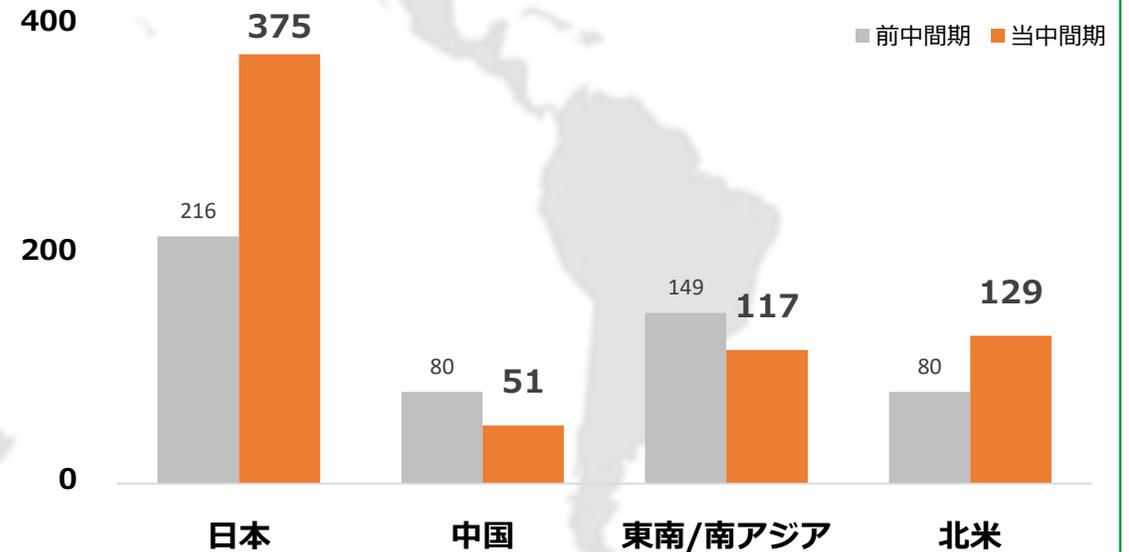
## 売上高

(単位：百万円)



## 営業利益

(単位：百万円)



# 中間連結貸借対照表

## 流動資産

- 期末日休日による影響

## 固定資産

- 有形固定資産：円安による影響
- 無形固定資産：ソフトウェア取得
- 投資その他：持分利益増

## 負債

- 有利子負債：長期借入金返済

## 純資産

- 利益剰余金
  - 中間利益 - 配当金
- 包括利益累計額
  - 為替換算調整額増加

(単位：百万円)		増減			増減
現預金	5,064	▲572	仕入債務	5,114	+260
売上債権	8,855	+914	有利子負債	5,349	▲756
棚卸資産	6,955	+269	その他流動負債	1,953	+41
その他	467	▲258	その他固定負債	1,048	+42
<b>流動資産計</b>	<b>21,342</b>	<b>+352</b>	<b>負債合計</b>	<b>13,463</b>	<b>▲467</b>
有形固定資産	10,453	+313	資本金・資本剰余金	4,090	+1
無形固定資産	1,388	+160	利益剰余金	15,019	+345
投資その他	4,931	+236	自己株式	△649	▲88
			包括利益累計額	2,972	+1,048
			非支配株主持分	3,218	+222
<b>固定資産計</b>	<b>16,772</b>	<b>+708</b>	<b>純資産合計</b>	<b>24,650</b>	<b>+1,528</b>
<b>資産合計</b>	<b>38,114</b>	<b>+1,061</b>	<b>負債・資本合計</b>	<b>38,114</b>	<b>+1,061</b>

(単位：百万円)

## ➤ 主な増減要因

### 営業キャッシュフロー

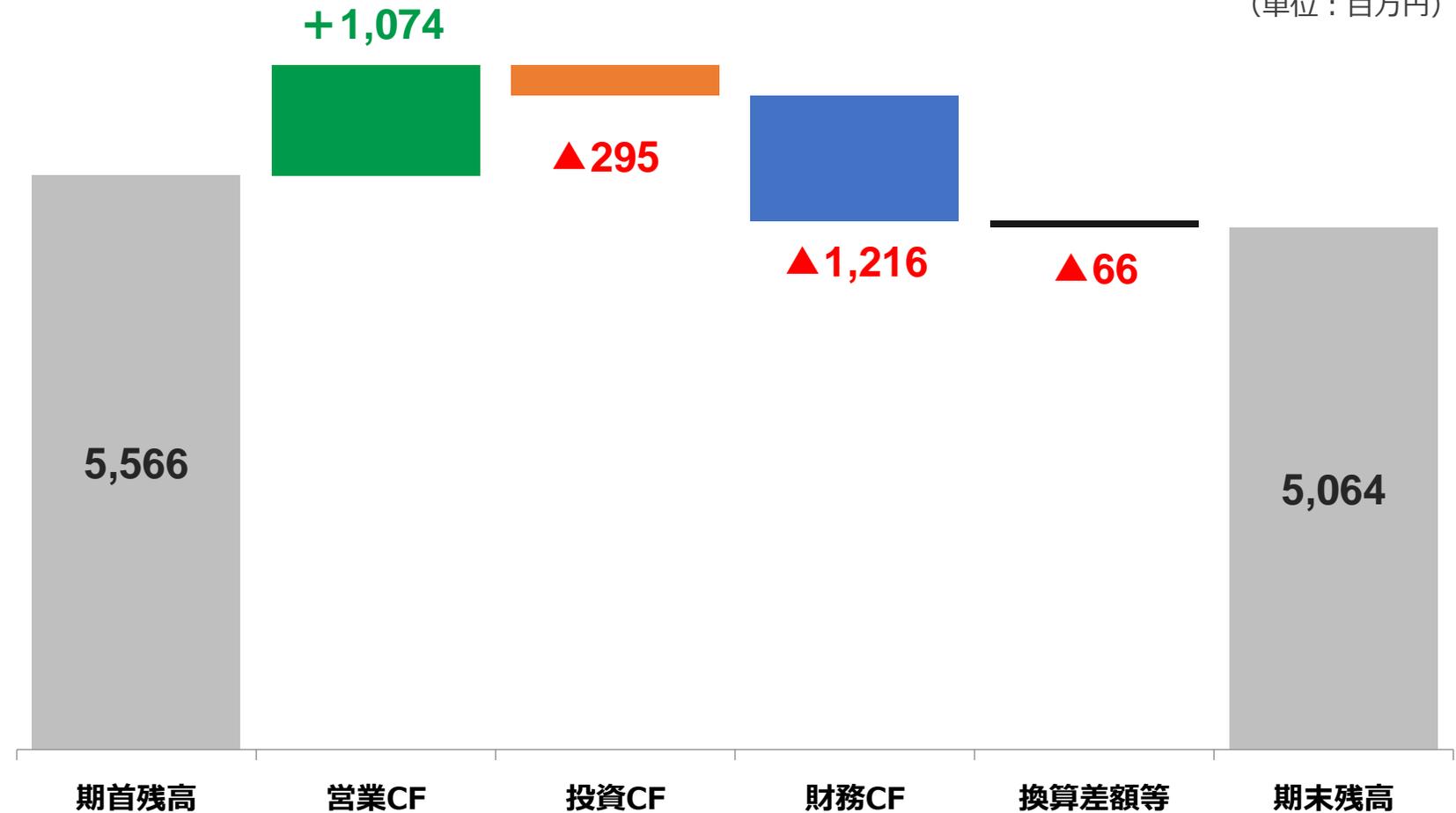
- ・ 税金等調整前中間純利益 +917
- ・ 減価償却費 +643
- ・ 売上債権増 ▲487

### 投資キャッシュフロー

- ・ 有形固定資産の取得 ▲253
- ・ 無形固定資産の取得 ▲104

### 財務キャッシュフロー

- ・ 長期借入金の返済 ▲738
- ・ 自社株式の取得 ▲100
- ・ 配当金 ▲231



## ➤ 通期予想の前提

原油価格：97 \$ /BBL

為替レート：145円/\$

## ➤ 1株当たり配当金（予想）

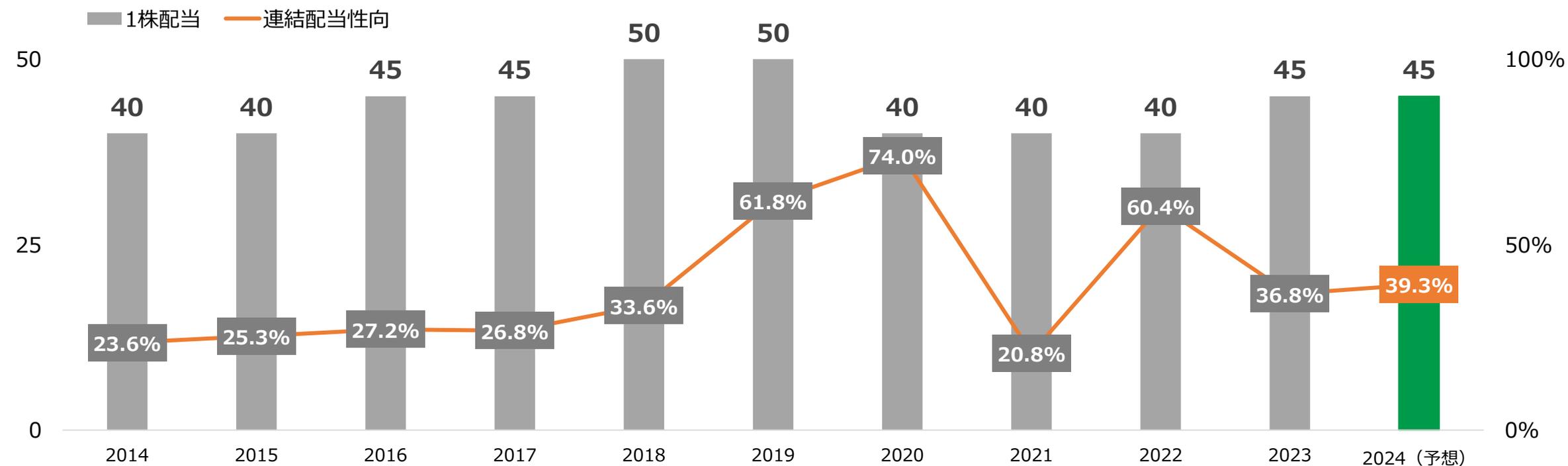
中間20円、期末25円

(単位：百万円)	25年2月期予想	当中間期	進捗率
売上高	34,000	17,102	50%
営業利益	1,500	671	45%
経常利益	1,850	965	52%
当期純利益	1,050	576	55%

- 年間配当45円（中間配当20円、期末配当25円）を予想
- 連結配当性向は39.3%となる見込み

## 1株配当および連結配当性向推移

(単位:円)



# 目次

● 経営環境および事業概要

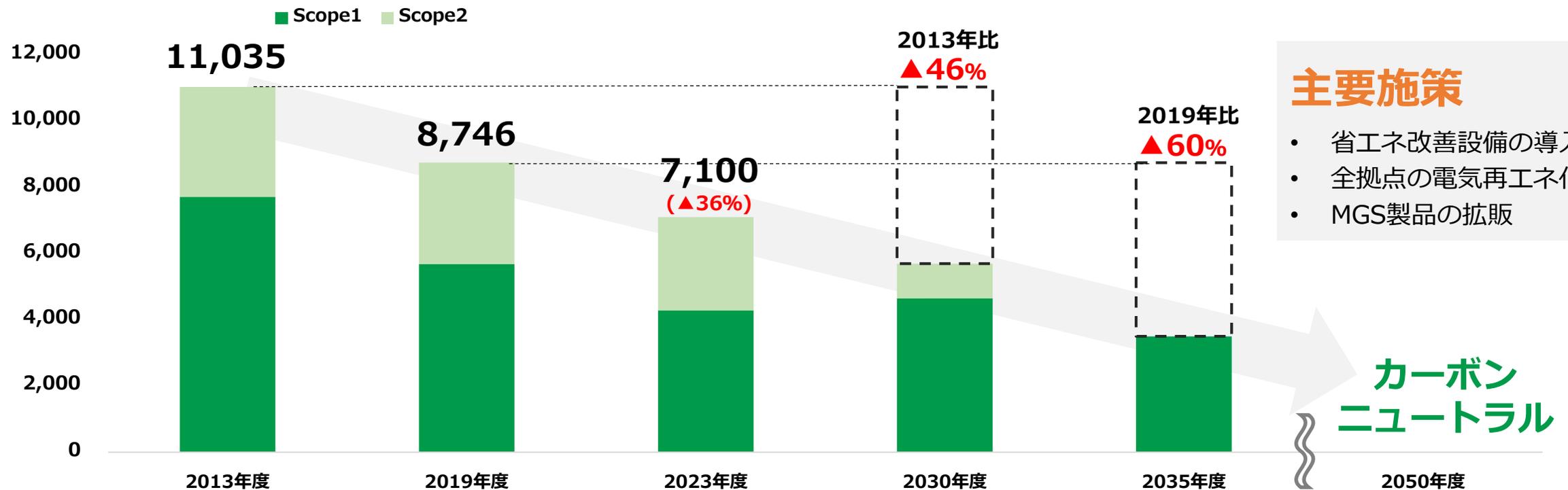
● 業績報告

● トピックス

- 2030年までに自社消費エネルギーによるGHG排出量を46%削減（2013年対比）
- 2050年までにカーボンニュートラルを実現

## カーボンニュートラルへのロードマップ

(単位: t-CO<sub>2</sub>)



➤ 特殊潤滑油製品の拡販と環境装置の新規認定により、2023年度の売上比率は33%に増加

## MGS製品の売上比率



29%

33%

40%

2022年度実績

2023年度実績

2026年度目標

## 部門別MGS製品の販売状況

87億円

104億円

(+458%)

(+5%)

(+6%)

(+13%)

その他

素材

ホットメルト  
接着剤

特殊潤滑油

(株)マツケンの  
環境装置をMGS  
製品に認定

少量塗布型  
離型剤の拡販

2022年度

2023年度

- 岡山県真庭市の液肥プロジェクトにおいて（株）マツケンのバイオ液肥濃縮装置が採用
- 2025年1月からのプロジェクト本格稼働に向けて、同社納入の濃縮施設は12月頃までに運転開始予定

## 真庭市のくらしの循環センター

### ➤ 生ごみ等資源化施設

生ごみやし尿、浄化槽汚泥と合わせてメタン発酵させ、メタン発酵消化液（バイオ液肥）とバイオガスに再生する施設です。



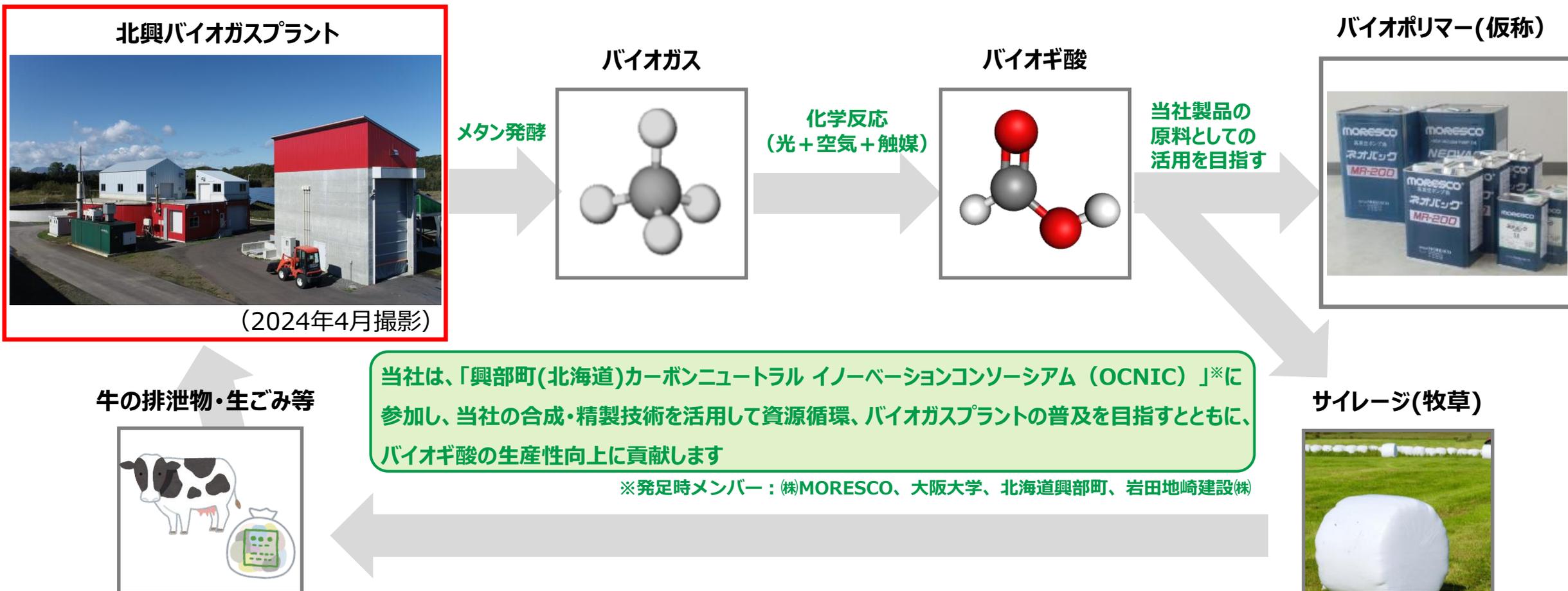
### ➤ バイオ液肥濃縮施設

メタン発酵消化液を遠心分離、膜濃縮、電気透析により、濃縮する施設です。9月中旬から試運転を開始しており、12月初旬までに本格運転を予定しています。

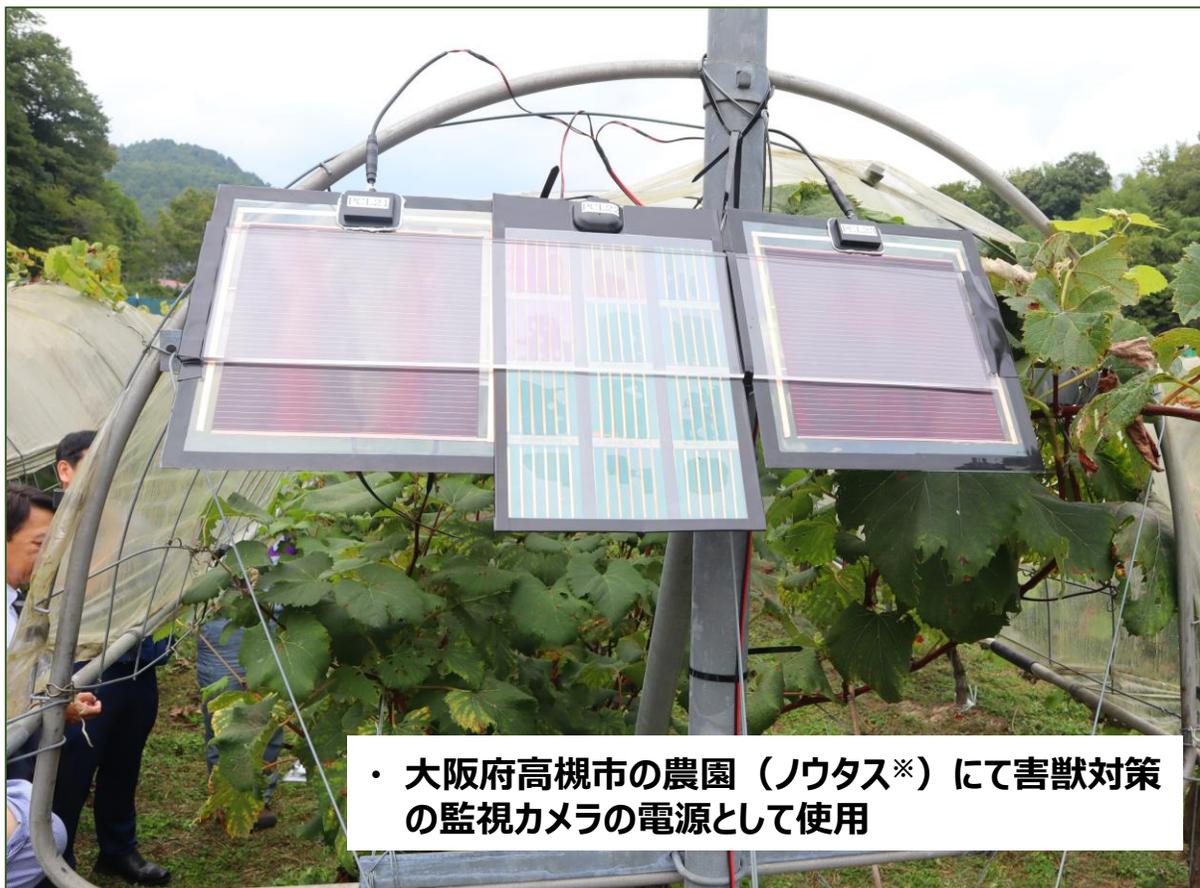
### マツケン液肥濃縮装置一式



- 2024年に北興バイオガスプラントにバイオギ酸を生成するベンチ設備を搬入
- OCNICコンソーシアムに栗田工業(株)、(株)大阪ソーダ、JA北オホーツクの3社が新たに参画



- ▶ ペロブスカイト太陽電池の実証実験の目的で、大阪府高槻市の農園に当社の封止材を使用した試作品を設置（2024年10月2日）

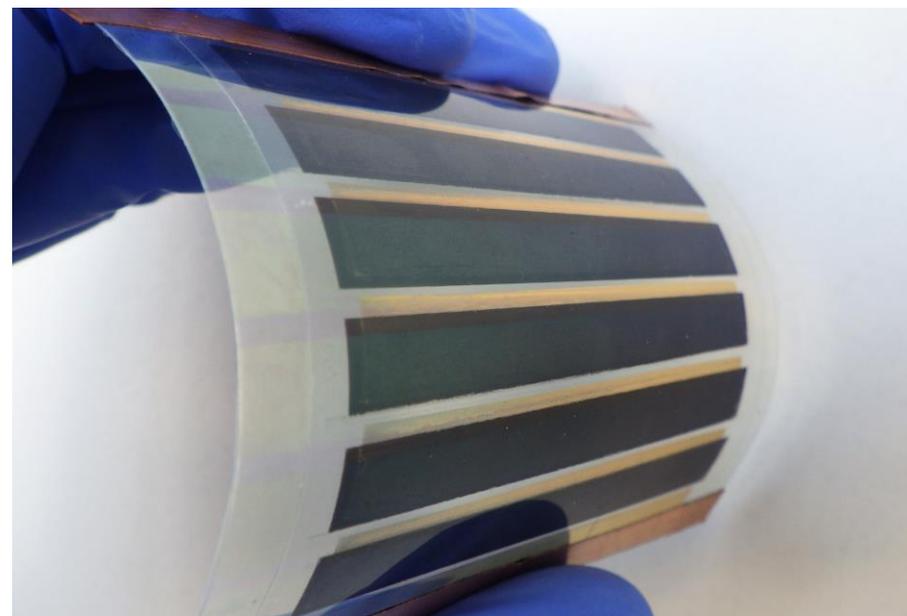


- ・ 大阪府高槻市の農園（ノウタス※）にて害獣対策の監視カメラの電源として使用

出所：当社撮影

※ デジタルトランスフォーメーションの推進を通じた家族経営農家の持続可能な農業の実現を目指して設立された会社

## 次世代太陽電池「ペロブスカイト」試作品



出所：桐蔭横浜大学

### 当社封止材の特徴

1. 直接貼り合わせでもペロブスカイト素子にダメージを与えない
2. 基材に貼り合わせるだけで優れた密着性を発揮(加熱やUV処理が不要)

➤ 株主・投資家の方々をはじめとする全てのステークホルダーの皆様に、当社グループの持続的な価値創造に向けた取り組みをご理解いただくことを目的に創刊

## MORESCOグループ統合報告書2024の概要

### 1. 価値観～長期戦略

当社グループのいま目指していること、長期的にありたい姿と実現に向けた重要課題（マテリアリティ）などを、CEOのメッセージとともに記載

### 2. 実行戦略

長期目標達成に向けた、「第10次中期経営計画（2024年度～2026年度）」の事業戦略をCFOのメッセージとともに記載

### 3. イノベーション

研究開発部門の新事業創出に向けた活動をCTOメッセージで紹介

### 4. サステナビリティ

サステナビリティ経営の推進状況を、具体的な取り組み事例で紹介

### 5. コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス体制と強化に向けた取り組みを、独立社外取締役メッセージとともに記載

[https://www.moresco.co.jp/ir/integrated\\_report.php](https://www.moresco.co.jp/ir/integrated_report.php)



MORESCOグループ  
統合報告書  
2024



- この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点における当社の判断に基づくものであり、今後、予告なしに変更することがあります。
- 本資料記載の業績見通しや目標数値のみに全面的に依存して、投資判断を下すことによるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。
- なお、当資料を無断で複写複製、配布することを禁じます。